

# 農業



平成28年4月号  
会誌 No. 1611

## 目次

### 巻頭言

東京農大125周年 次の125年に向けて……………高野 克己 3

### 論壇

内部化される外部経済・不経済……………生源寺眞一 4

### 先進的農業経営研究会

九州地域の大规模水田作経営の事例…………… 6

－わが国農業を先導する先進的農業経営研究会（第9回会合）－

#### 話題提供

地元の信頼を得て規模拡大し、麦播種機改良等の機械化により生産性向上  
……………福岡県糸島市 小金丸 満 6

地域の農家と協働・協力して、米、麦、野菜の大规模経営を実現  
……………鹿児島県出水市 野中 保 11

質疑応答・意見交換…………… 16

### 寄稿

今後の稲作経営の安定化に向けた除草機や除草剤の考え方……………伊藤 一幸 33

庄司 浩一

研究の最前線

「資源作物」の品種開発……………大湯 直樹 41

農業・農村の現場から

亘理町,山元町のイチゴ産地復興の取り組み……………岩崎 泰永 51  
- 震災被害からのイチゴ産地復興支援と新技術定着のための取り組み -

世界の農業は今

アフリカにおけるネリカ栽培技術開発と普及……………坪井 達史 58

私の経営と志

都会暮らし, 海外生活を経て福井で就農……………長橋 努 64

表彰

平成27年度大日本農会賞の受賞者…………… 66  
付：大日本農会と東京農業大学の関係  
第55回全国青年農業者会議  
プロジェクト発表・農業青年の意見発表等受賞者…………… 70

農政情報

…………… 72  
大日本農会だより…………… 73  
編集部から…………… 74

表紙写真説明

満開のモモの下 (山梨県笛吹市 いちのみやちようきつねあら い 一宮町 狐新居)

4月半ば少し前に山梨県一宮町を訪ねると、モモの花で畑一面が埋め尽くされ、まさに桃源郷となっていることに驚かされる。山梨県はモモの生産量が日本一であり、中でも一宮町は一番の産地である。この時期、満開の花の下で受粉作業が行われている。花粉が無い品種に対し、予め集めておいた別の品種の花粉を付けているのだが、枝の先はまだ蕾であるため、それが開いたところでもう一度この作業をするとの話だ。実が熟すのは枝の先からと逆であり、面白い現象である。

別の畑では摘花作業が行われていた。「花に囲まれて綺麗ですね。」と話しかけると、「大変な作業なのよ。花を摘んだ後は摘果もあるし、最後は袋かけまでするんだから。」と返ってきた。  
(写真/文：編集部)